

## 大学教育学会 課題研究活動報告書 (2019 年度)

提出日 2020 年 3 月 22 日

報告者 井下 千以子

課題研究テーマ	学生の思考を鍛えるライティング教育の課題と展望
代表者 (所属)	井下千以子 (桜美林大学)
メンバー (所属)	井下千以子 (桜美林大学)、大島弥生 (東京海洋大学)、成瀬尚志 (大阪成蹊大学)、小山治 (京都産業大学)、小笠原正明 (北海道大学)、杉谷祐美子 (青山学院大学)、関田一彦 (創価大学)、柴原宣幸 (開智国際大学)
担当理事 (顧問)	小笠原正明 (北海道大学)
コメンテーター (所属)	山地弘起(大学入試センター)
実施した活動	<p>1. 2019 年度課題研究ラウンドテーブル 「ライティング・センターの機能と展望—正課と正課外をつなぐライティング教育を目指して」 事例報告：創価大学 (佐藤広子)、青山学院大学 (小林至道)、関西大学 (岩崎千晶)、早稲田大学 (佐渡島沙織) 趣旨説明：井下、指定討論：柴原、大島、全体討論：成瀬、関田</p> <p>2. 2019 年度課題研究シンポジウム I 「思考力と書く力の学術的基盤形成—大学のライティング指導の多様性に着目して—」 事例報告：福博充、関田一彦 (創価大学)、高橋 薫 (早稲田大学)、成瀬尚志 (大阪成蹊大学) 司会：大島、趣旨説明：井下、全体討論：杉谷、コメント：小笠原</p>
成果	<p>1. 正課外の支援として、4 つの大学のライティング・センターを検討した結果、学生自らが考えて書く「自律した書き手」を育成すること、チューターの養成に体系的に取り組んでいることがわかった。一方、センターの利用は学生の主体性に委ねられており、多様化する学生や授業(正課科目)の要望に応じていけるのか、組織の在り方が問われている。</p> <p>2. 正課科目でのライティング指導について、3 つの報告「初年次科目：思考技術基礎」「論理的に書く力を育成するための思考ツール」「論題分析のためのフレームワーク—構文論的分析と状況設定的分析」をもとに、思考を可視化する授業デザイン、論証させる思考ツール、思考にいざなう論題など、思考を鍛えるための多様なライティング指導法が提起された。</p>
残された課題	<p>初年度はテーマを俯瞰し、今年度は支援の多様性と課題を析出した。最終の 2020 年課題研究シンポジウムでは、ライティング教育の課題を、①高大接続、②専門科目との連携、③リーディングとの統合、④卒後の仕事との関連について検討する。担当は①②井下と柴原、③杉谷、④小山。指定討論に山地会員、総括は小笠原会員に依頼し承諾を得た。</p>